

(4) スクールソーシャルワークのプロセス

学校におけるソーシャルワークは、次のように進めることが想定されます。

インテーク (相談を受理すること。)

情報を整理しながら記録していきます。アセスメントシートを作成することが、情報の共有化により効果的です。

アセスメント (見立て。解決すべき問題や課題のある事例の家族や地域、関係者などの情報から、なぜこのような状態に至っているのかを探ること。)

- ①人間の行動には、必ず要因があると考える。
- ②その要因を、個人と環境との関係の中で見出そうとする。
- ③要因を見出すためには、情報を集め分析することが役立つ。

プランニング (解決に向けた目標の設定と具体的な手立て。アセスメントに基づいて、事例に合った支援目標と対応プランを考えること。)

目標には長期目標と短期目標があり、具体的に組み立てる目標を設定することが大切です。チームで取り組み、複数で話し合うことで見方の違いが出され、それを検討することで支援の道筋ができてきます。

- ④要因が見出だせたら、それに対する最善の対応策を考える。

プランの実行 (ケース会議等で話し合われた内容を具体的に行うこと。)

- ⑤その対応策を、関係者で分担して実施する。

スタディ (アセスメントからどのような目標を立て、プランに沿ってどのように動いたのか、結果はどうだったのかを検証し、見直しを行うこと。)

うまくいったときは継続し、うまくいかなかったときは、アセスメントまたはプランニングが不十分だったのか、実行段階に問題があったのか等を丁寧に検討し、柔軟に修正を行うことが必要です。

- ⑥その実行した結果を振り返って、次の対応に向け改善する。

アセスメントへ

学校の教職員に加え、必要に応じて関係機関等によるケース会議を設定し、アセスメント、プランニング、スタディを協働で実施することが効果的な支援へとつながります。問題を解決することにより、児童・生徒の成長に結びつくよう支援を行うことが重要です。